

市民参加の時代のアート

—鑑賞する芸術から経験する芸術へ—



21世紀に入ってアートのかたちが大きく変化しています。世界中の都市や地域でアートフェスティバルやアートプロジェクトが行われ、アートは地域やコミュニティの活性化にさまざまな形で用いられるようになりました。絵画や彫刻のように美術館で鑑賞する芸術だけではなく、子供から大人までさまざまな市民を巻き込んで、アーティストとともに作品やプロジェクトを作り上げていく参加型の芸術が増えています。アートはどこに向かうのでしょうか。その時にアーティストやキュレーター、行政や市民はどのような役割を担うのでしょうか。最近の国内外の参加型のアートフェスティバルやプロジェクトを紹介しながら、その魅力や面白さと問題点をお話します。

講師 毛利 嘉孝 (もうり よしたか)

東京藝術大学大学院教授 (社会学)。1963年長崎県生まれ。京都大学経済学部卒。ロンドン大学ゴールドスミス・カレッジ Ph.D (社会学)、MA(メディア&コミュニケーションズ)修了。九州大学を経て現職。特にポピュラー音楽や現代美術、メディアなど現代文化と都市空間の編成や社会運動をテーマに批評活動を行う。主な著書に『文化=政治 グローバリゼーション時代の空間叛乱』、『ストリートの思想 転換期としての1990年代』、『はじめてのDIY』、『増補 ポピュラー音楽と資本主義』など。

開催概要

- 日時：2016年10月3日(月) 19:00~20:45 (18:30 開場)
- 会場：日比谷図書文化館 地下1階 日比谷コンベンションホール (大ホール)
- 定員：200名 (事前申込順、定員に達し次第締切)
- 参加費：1,000円
- 申込方法：来館(1階受付)、電話(03-3502-3340)、Eメール(college@hibiyal.jp) いずれかにて
①講座名、②お名前(ふりがな)、③電話番号をご連絡ください。